

新除草・調節剤

アフアロン

リ ニ ュ ロ ン 水 和 剤

アフアロン普及会
ヘキスト・ジャパン(事務局)
日本農薬株式会社
日産化学工業株式会社
イハラ農薬株式会社

成分、作用特性：本剤は、有効成分N-(3,4-ジクロロフェニル)-N'-メチル尿素50%を含む水和剤である。本剤は、雑草の莖葉や根より吸収され、光合成を阻害して白化を起し、殺草性をあらわす。地中で発芽した雑草の根より吸収されるときは、芽が地上へ出てから効果があらわれ、すでに発芽したものでは、葉の先端や緑の部分より枯れてくる。老化した植物体内の移行は少ないので、莖葉処理には展着剤を加用すると効果が高まる。

セリ科に選択性がありニンジン、ミツバ、セルリーに対し安全に使用できる。水に対する溶解度が小さく、土壤中の移動は極めて小さい。残効性は30～60日位で長い。

対象作物：ニンジン・タマネギ(本畑)・パセリ・アスパラガス・水稻・陸稻・ムギ類・豆類・ラッカセイ・トウモロコシ・バレイショ・カンショ・ハッカ・桑・ミツバ・セルリー。

毒性は、急性経口毒性LD50:4,000 mg/kg(マウス)でほとんど無害である。

使用方法：は種後土壌処理には、10アール当り製品100～200gを水70～100ℓにとかして用いる。雑草莖葉処理は、発生後なるべく早く実施する方がよいが、400～600g

を100～150ℓの水にとかして用いれば草丈15～20cm位の雑草を殺すことができる。

使用上の注意としては、土壌処理の場合、土壌が乾き過ぎていると効果が落ちるので、湿った時に使うこと。ニンジンの発芽期から本葉1枚の出始めごろは、薬害がやすいので使用をさけること。トウモロコシ・タマネギ・桑の生育期の散布は、薬液が作物にかからぬようにすること。水田裏作タマネギには、8月以降の使用は薬害がやすいのでさけること。

A T P 液 剤

ダウ・ケミカル・インターナショナル・リミテッド

成分、作用特性：本剤は、有効成分4-アミノ-3,5,6-トリクロロピコリン酸のカリウム塩を24.9%含有する液剤である。

ATPはいわゆる植物ホルモン系除草剤と類似の作用特性、つまり広葉植物に作用が大きく、いね科植物には作用が小さい選択性を示す。

広葉植物に対する殺草作用は2,4-P Aや2,4,5-Tよりも強力で、特に木類や多年生広葉雑草の防除に有効である。移行型の作用をもつので、莖葉処理によって最も大きい効果が得られる。また、土壌中の移動性・残効期間ともに中程度であって、雑草木を生育期に土壌処理で防除する事もできる。

人畜魚類に対する毒性は、極めて少ない。

使用方法：芝生の生育期間の広葉雑草防除を対象として、実用化が認められた。使い方は、10アール当り製品80～160gを水100ℓにとかして散布する。その他、水稻刈取後処理による

新除草・調節剤

マツバイ・ミズガヤツリなどの除草，林野におけるシタ類防除等に開発されつつある。（なお本剤の日本における商品名は未定であるが，諸外国では，トードン 22K，として使用されている。）

ロンパー

S — 41 乳 剤

室町化成株式会社
日本農薬株式会社
東洋棉花株式会社

成分，作用特性：本剤は有効成分 N—(β—0,0—ジイソプロピル—ジチオフオスフオリルエチル)—ベンゼンスルホンアミド 50% を含む乳剤である。本剤は，コーライ芝，ペントグラスなどに選択性があり，メヒシバ，オヒシバ，スズメノカタビラなど芝生内のイネ科一年生雑草の防除に効果的に使える土壌処理型除草剤である。残効性は，極めて長い。

使用方法：2月下旬～4月，又は8月下旬～10月の雑草の発生前に10アール当り製品2,000～3,000ccを200～300ℓの水にとかして散布する。

使用上の注意としては，雑草が2葉以上になると効果が劣るので，必ず発芽前から発芽時まで使うこと。ターフを形成していないペントグラスには，葉害があるので使用しないこと。

殺菌剤および化学肥料との混合散布ができるが有機質肥料との混合はさけること。

キャンパロール

CAT・プロメトリン水和剤

日本化薬株式会社
イハラ農薬株式会社
日産化学工業株式会社
日本農薬株式会社

本剤（試験名A1808）はすでに麦類，休閑田，陸稲，落花生等を対象として実用化に移されているもので，今回は桑園を対象として実用化に移されたのでこれを中心として使い方を説明する。

成分，作用特性：本剤は，2—クロル—4,6—ビス—エチルアミノ—S—トリアジン（CAT）14.0%と2—メチルチオ—4,6—ビス—イソプロピルアミノ—S—トリアジン（プロメトリン）86.0%を有効成分とする混合剤である。

本剤は，非ホルモン型の移行性除草剤であるが，性格を異にする代表的な2種のトリアジン系除草剤を混剤化することにより，草種選択性を少なくし，土壌処理剤の効果とともに，雑草処理剤としての効果を期待できる。

特に散布液に非イオン型の界面活性剤を加用することにより，草丈20～30cmの雑草を枯殺することができ，その後長期間雑草の発生を防止するので，桑園等には最適の除草剤である。

毒性については，マウス，ラツテとも急性経口毒性LD50がCAT・5,000mg/Kg以上，プロメトリン：8,750mg/Kgとほとんど無害で，魚毒も極めて低く，実用上心配ない。

使用方法：桑園の場合，春期雑草発生初期